

第1回宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会 議事録

- 1 日 時 令和4年4月28日（木）18：30～20：15
- 2 場 所 宇部市総合福祉会館 2階 ボランティア交流ホール
- 3 出席委員の氏名
鷹岡 亮 委員
松田 靖 委員
伊藤 一統 委員
松尾 淳一 委員
松田 昌枝 委員
松岡 千鶴 委員
小野 晃子 委員
上原 久幸 委員
井上 博己 委員
井上 政志 委員
福永 久美子 委員
- 4 事務局出席職員
上村教育部長、床本次長、三好教育総務課長、藤井教育施設課長、
原学校教育課長、伊藤教育総務課副課長、平山教育総務課副主幹

5 趣 旨

（事務局）

ただ今から、第1回宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会を開催いたします。
それでは、会長、副会長の選出に移ります。会長、副会長は、宇部市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例第5条の規定によりまして、委員の皆様の互選で決定することとなっております。どなたか、会長、副会長候補のご推薦等ありましたらお願いいたします。

（委員）

事務局案がありましたらお願いします。

（事務局）

ただいま、事務局案をというご意見がありましたが、事務局案を提示してよろしいでしょうか。

【全員了承】

（事務局）

会長を山口大学学部長の鷹岡委員、副会長をフロンティア大学短期大学部教授の伊藤委員にお願いできればと思います。よろしければ拍手でお願いします。

【全員承認】

（事務局）

ありがとうございます。それでは、会長、副会長のお二人は席の移動をお願いします

す。

(事務局)

就任にあたりまして、ご挨拶をお願いします。

(会長)

ただいまご推薦いただきました山口大学の鷹岡です。若輩者ではありますが、子どもにとって望ましい、あるいは宇部市の子どもたちのため、子どもたちにとって良い方向など、皆様の一つひとつのご意見を大切にしながら議論を進めていければと思っています。様々なご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

(副会長)

15年前の審議会にも関わっておりまして、もうそんなに経ったのかと思います。前回の方針を定めたときに、子どものこともありますが、コミュニティ・スクールの観点、コミュニティの機能の維持も視野に入れながら適正配置を考えました。ですので、子どものためということもありますが、最終的に地域が元気だから子どももよくなるというところを持っていきたいと思っています。前回の適正配置を考えたときに、各地域についても定めましたが、なかなか計画通りにいかなかったところもありましたので、今回は時間をかけてしっかり考えていけたらと思います。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして、教育委員会から本審議会へ諮問をさせていただきます。

【野口教育長から鷹岡会長へ諮問を行う】

(事務局)

今後の議事の進行にあたっては鷹岡会長をお願いします。

(会長)

それでは、これから、議事の進行については私の方で進めていきたいと思っています。まず、ただいま配布されました宇部市立小中学校適正規模・適正配置に係る諮問について、皆様に目を通していただければと思います。

(会長)

それでは、次回以降は審議事項として最適な教育環境として将来あるべき学校の姿とその実現のために必要な適正規模など今後の方向性について委員の皆様と議論させていただきますが、本日は、次回以降のために現在の状況について事務局から説明いただき、それに対して皆様にご質問やご意見をいただければと思います。

(会長)

議事の「小中学校適正規模・適正配置計画の策定について」、「小中学校の現状について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、本日は最初の審議会ですので、人口減少とか少子化といった言葉が出て

きますが、日本の人口減少の現実についてお伝えしようと思います。

-----少子高齢化に関する現状の説明-----

(事務局)

-----資料に沿って説明-----

(会長)

ただいまの事務局からの説明について、皆様からご質問やご意見等ありましたらお願いします。

(委員)

今の説明にありました、標準学級数という言葉について、もう少し説明をお願いします。一つの学校に、小学校も中学校もそれぞれどれくらいの学級数、先ほどの説明で現状の数は言われましたが、何が標準かということもあるかと思いますが、ひとつの目安として、私の記憶で言いますと、小学校も中学校も12学級以上18学級以下という数値が、国が示したもののの中にあつたと記憶しております。

(事務局)

学校教育法施行規則において、小学校の学級数は12学級以上18学級以下を標準とするとされており、これが標準学級となっております。国が示しているものとして、過小規模が1～5学級、小規模が6～11学級、学校統合の適正規模は19～24学級が適正規模の範囲には入りますが、25～30学級が大規模、31学級以上が過大規模というのが、学校規模の目安、基準として国が示しているものです。

(委員)

審議事項にもありました、「最適な教育環境」について考えた時、最適というのがまた難しいですが、子どもたちの成長を考えた時、やはりある程度の集団の中で多様な考えに触れたり、協力しあったり、切磋琢磨したりして、その中で子どもたちは成長していくものではないかと私は考えています。そうしたことから、今示された数字が望ましいかはわかりませんが、これから、望ましい教育環境として将来あるべき学校の姿を議論する中で、ある程度の集団、学級数というものも見据えながら、あるべき学校の姿を考えていきたいと思えます。

(会長)

ありがとうございました。ほかの委員の方でご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(委員)

今の説明とは少し違うかもしれませんが、基本的なところを教えてくださいたいです。コミュニティ・スクールと、この適正という、当然適正化を進めていく時に、統廃合となった時に、地域のコミュニティといいますか、コミュニティ・スクールの役割というのは、どうなっていくのでしょうか。コミュニティ・スクールの基本的な部分は、地域の中に学校が中心として、あるいは学校、生徒が地域に入り込んで地域づくりと一緒にやっていこうという考えでコミュニティ・スクールがあつて、今現在もそれに向かって一生懸命各学校はやっています。それとこの適正規模・適正配置の考え方とはどうなっていくのか、どう考えておられるのか。部署によって、全然違うこ

とを市としてやっておられるのか。そのあたりをコミュニティとして進めていく、或いは学校運営協議会などで進めていくということからすると少しそのあたりが整理できないです。そこはどう考えておられますか。

(事務局)

教育委員会としましては、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進めています。まさにコミュニティ・スクールですが、そこが悩ましいところではあります。地域の視点と教育の視点を一緒にすると、どうしても小規模校でも残った方が良いという話になりますが、ここではまず子どもたちにとって最適な教育環境はどうあるべきか、議論いただきたいと思います。

もちろん分けて考えることは難しいことではありますし、当然最終的には、調整の問題ではあります。そもそも学校は集団の中で学ぶ場、学校はそういう場であって、子どもたちが将来社会に出ていくためには学校がどうあったらいいか、まずは子どもたちにとって最適な教育環境、ここではそれを主に考えていただけたらと思います。

(委員)

切り離して考えるということが良いですか。

(事務局)

いずれかの時点で当然出てくることではありますので、こちらでも市長部局の地域づくり等の担当部署も含めて庁内検討委員会を立ち上げ、協議を進めているところですが、まずは切り離して考えていただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございました。ほかにありますか。

(委員)

私たちは、最適な教育環境ということに関しては、児童数が多い方が良いのか、逆に少ない方が小さいコミュニティの中での成長も良いのではないかと思うところもあります。そこが漠然としすぎて、なかなか最適な教育環境とは何なのか、見えにくいとすごく感じています。将来あるべき学校の姿というのも、言葉ではこうありますが具体的にどういうところを宇部市として目指しているのか、その考え方をお聞きしたいです。

(事務局)

それにつきましては、次回、庁内検討委員会で作成し教育委員会会議で承認を得ました案をお示しし、その案を元に、皆様からご意見をいただければと思っています。

(会長)

ほかにありますか。未就学児をお持ちのお二人はいかがですか。

(委員)

私も、考えるのは、大きい学校小さい学校、正直どちらの方が良いのか、ということです。大きい学校でしたら集団で学べてコミュニケーション能力を身につけられますし、やはり色々な児童生徒の意見を自分に取り入れていけるのでとても良い環境ではないかとは思いますが、それに対して小さい学校は万倉小学校なども自然の中です

くすく育てるし児童生徒は少ないですが児童生徒一人ひとりに対してじっくり教育ができて勉強がはかどるのではないかと思います。これからずっと適正な人数について考えていくので、何が正解なのか私が分かっていないので、皆さんと一緒に考えていきたいというのが私の現状です。

(会長)

私自身もそうです。とても難しい概念で、言葉で書くのは簡単ですが、それを少しずつ皆で議論していきましょうということですので、全然問題ないと思います。ほかにありますか。

(委員)

私たちはそれぞれ、就学した学校のイメージ、お子さんが就学しておられる学校のイメージがあり、それは様々だと思います。私自身も山奥の小さな学校で育ちました。共通認識は難しいかもしれませんが、例えば学級数が多い時のメリット、デメリット、また小さい学校のメリット、デメリットについて、具体的な資料を示していただくとイメージしやすい、また同じものを見ながら話ができるのではないかと思います、いかがでしょうか。

(事務局)

それにつきましても、次回ご用意させていただきます。それ以外にも、委員の皆様から資料のご希望がありましたら、この場でも結構ですし、後日個別にでも結構ですので、事務局にご連絡いただければご用意したいと思います。よろしく申し上げます。

(会長)

ほかにありますか。せっかくですので、松岡委員、小野委員から、今勤務されている学校についてご紹介いただければと思いますが、いかがですか。

(委員)

常盤中学校で、今年度が10学級で529人という学校です。昨年度から約50人増えまして、教員も6人くらい増えております。大きい学校の良さは、教員の配置数も学級数によって決まってくるので、全ての教科の教員がいる状況で、子どもにとっては専門の先生から学べるというのは良いことではないかと思います。ただ、1学級に30人、1学年に6学級程度ありますので、個別に一人ひとり目が行き届くかという点では、先生方も頑張っていると思いますが、そこは小さい学校の方が一人ひとりに目が届きやすいのかなと感じています。色々な面でメリット、デメリットはどちらもあっていると思っています。

(委員)

東岐波中学校は現在21学級556人です。1学年が約180人、多い学年で200人という規模です。多くの児童と多くの先生たちがいる良さや同学年に多くの学級がありますので先生が入れ替わって授業する教科担任制のようなものも取り入れて、学習の充実を図っているところです。先ほどからも言われておりますように、私たちも校長会などで情報交換をする中で、小規模校は小規模校の良さもあり、学習や授業に限れば、少人数で細やかな指導が行えるということもあるかもしれません。一方、子ども同士の関わり、人間関係作りという面ではメリットもデメリットもあると思

ます。そうした中で、適正規模・適正配置とは一体どのようなものかということがあって、文科省のホームページを見てみますと、文科省では望ましい学級数として、小学校では、少なくとも1学年2学級以上、また中学校では全学校で9学級以上、といった目安が示されています。それが何なのかというと、学年が上がる時にクラス編成ができることが望ましい、ということでした。人数だけではあがれませんし、色々なものが影響してきますが、先ほど言われたコミュニティですとか様々な地域の問題であるとか、色々な条件を加味すると議論が紛糾してしましますが、子どもたちの数とか、規模だけに絞ればそういった目安もあるということを情報としてお伝えします。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

資料として、次回で良いですが、学級数によって教職員数が違ってくる、そういうことが分かるような資料があればまた参考になるのではないかと思います。可能であれば、準備していただけたらと思います。それから、諮問にもありましたが、学級数などの規模だけではなく、この常盤中学校は4つの小学校から上がってきますので、校区のことが気になります。

(会長)

今の、校区のことに関して、必要な資料などありますか。

(委員)

就学校区のことがありましたが、校区の変遷など数字で示してある資料がありましたら分かりやすいかと思います。

(会長)

ありがとうございます。ほかにありますか。

(会長)

必要な資料がありましたら、この会議終了後1週間以内くらいまでに事務局にご連絡いただければ、可能な限り提供していただけるということですので、お願いできればと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。ほかにご質問等ないようでしたら、続きまして、次第7その他について事務局からお願いします。

(事務局)

委員の皆様、ありがとうございました。次回、第2回の審議会の日程についてお話しさせていただきます。第2回審議会につきましては、5月26日(木)か30日(月)のいずれかの同じく18時30分から開催させていただきたいと思っています。委員の皆様、いかがでしょうか。この場でご都合がお分かりでしたらここで決定したいと思いますが、もしご都合がお分かりでない場合は、ご都合の悪い日がある方のみ、5月2日(月)までに事務局にご連絡いただきたいと思います。今日程が分からない方はおられますか。

(事務局)

どちらの日付も都合の悪い方がおられるようですが、事務局でどちらかの日付で決定させていただいてもよろしいでしょうか。

【全委員了承】

(事務局)

場所につきましても、後日改めてご連絡させていただきます。以上です。

(会長)

今日のところは、宇部市の適正配置のこれまでの取組や今後のスケジュール、小中学校の現状についてご説明をいただきまして、次回から最適な教育環境について、定義としては難しいところはありますが、まずは宇部市がどのような学校のあるべき姿を考えておられるのか、資料を出していただき、説明していただきながら少しずつ議論を進めていこうと思います。小中学校の現状と課題や、またある程度の案までお話しいただくようになるかもしれませんが、今日の議論を踏まえた上で今一度資料をご覧ください、ご不明な点等ありましたらまた次回でお聞かせいただければと思います。本日は、それぞれの立場からご意見いただき、ありがとうございます。次回もどうぞよろしく願いいたします。